

ウェブ・フォト・ニュース ぐんま

一 学区内の危険箇所を示した安心安全マップが完成！ 一 子育て 安心安全マップ ワークショップ

12月14日(水)、伊勢崎市立あずま北小学校で「子育て 安心安全マップ ワークショップ」の発表会が行われました。

これは、NPO法人県央都市ネットワークが、県教育委員会の家庭地域連携促進事業として伊勢崎市あずま北小学校学区内の「安心安全マップ」を作成した成果の発表会です。



体育館に集まった5・6年生約160人は、通い慣れた通学路や近所の遊び場を興味深く確認している様子でした。



NPO法人県央都市ネットワークでは、今年10月から、伊勢崎市立あずま北小学校学区内の危険箇所を示した「安心安全マップ」づくりに取り組んできました。

どんな地図ができたかな？ さっそく説明開始です！

県央都市ネットワーク・理事長の鈴木孝尚さんが、これまでのワークショップの概要などを説明。

「これまで地域住民の皆さんといっしょに学区内を歩き、危険な場所のチェックなどを重ねてきました。まさに手作りの地域安全マップです」

「危険から身を守るのは、皆さん自身です！」



ワークショップに協力・参加した、ものづくり大学大学院・田尻要助教授の研究室の皆さんが、それぞれ説明。



「学区内をJR両毛線沿いに2つの地域に分け、2班に分かれて調査しました」



ワークショップの中では、地域住民の皆さんならではの意見も。生きた情報がたくさん入った、安心安全マップができました。

地図には写真も添付。実際の様子がわかるようになっています。



「街灯のない暗い道や、狭い歩道、フタのない側溝など、実際に歩いて危険な箇所を地図に落としていきました」

最後に、調査に使われた無記入の地図が配られました。

「皆さんが、いつも歩いている通学路には、大人も知らないような危険な所があると思います。この地図に書き込んで、自分が注意すると同時に、まわりの人にもぜひ教えてあげてください」

(田尻助教授)



出来上がった地図を見て、近くの危険場所を確認。

「あ、ここ知ってる！」
「この道、暗くてこわいんだよね」

身近な場所だけに、子どもたちも興味津々な様子でした。



地域の安全は、地域で守る。学校、家庭、地域が連携し、子どもたちを犯罪や事故から守る取り組みが、各地で広がっています。

「安心安全マップ」もそのひとつの取り組み。地図を作ることで、子どもたちが危険箇所を自分で認識し、危険を回避できます。自分たちで地図を作成しながら、「地域を知ること」の大切さが子どもたちに伝われば、と思います。

【文・写真・編集／広報課 井坂晴美】